

「地球1個分の暮らし」を未来に繋ぐ！ 合同会社 渥美どろんこ村（田原市）

事業者概要

- 所在地：田原市江比間町西砂畑 21-1
- 代表社員：渡部 弘
- 設立年：昭和 49 年（令和 2 年 合同会社化）
- 経営規模：キャベツ、ブロッコリー、大根、その他（300a 個人経営分を含む）、米（20a）、養豚 6 頭、養鶏 70 羽
- 売上高：2 千 6 百万円（個人経営分を含む）（R1 年度）
- 雇用者数：常時雇用者数 2 名、研修生 2 名



取組概要

- 【生産（1次）】露地野菜の生産（有機 J A S 認証）、水稲生産、アニマルウェルフェアに配慮した養豚、養鶏
- 【加工（2次）】シフォンケーキ等の製造、ウィンナー等の製造
- 【販売（3次）】カフェでの販売、ファームステイ

取組までの経緯

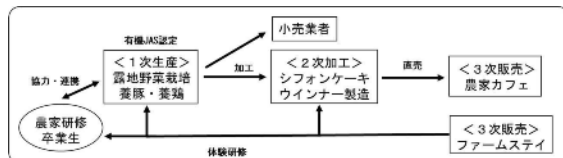
農業や大型機械の利用を前提とした大規模農業が主流となっている現状では、環境への影響も大きい。そこで、「地球1個分の暮らし」を提唱し、生産と教育を両輪とした持続可能な農業経営を行ってきた。

*「地球1個分の暮らし」
我々が消費する資源の生産や、社会経済活動から発生する CO2 の吸収に必要な生態系サービスの需要量を地球の面積で表した指標であるエコロジカル・フットプリントに基づく考え方。CO2 排出量等の環境負荷や資源の使い方を含め、地球1個で世界中の人々が持続可能に生活できる暮らし方。今の日本人の暮らしを世界中ですると、地球が2.8個分必要と言われている。（令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書 環境省より）

取組の特徴、強み

新規就農者の研修機関にもなっており、有機農業での新規就農は、一般的にハードルが高いと言われているが、農業生産とファームステイによる「暮らしを軸とした生産と学びの農業6次産業化経営モデル」を確立し、これまでに6名が卒業した。

ビジネスモデル ・連携図



取組の課題

- ポストコロナ時代におけるファームステイ等のイベントの新しい形の検討。
- サステナブルポークのブランド化。
- 渥美どろんこ村のファン作り。

課題解決の方法

- インターネットを活用した学びのコンテンツや「食育」をテーマにしたコンテンツ作りを進めており、学びの絵本を発行予定。
- 豚肉の成分分析やアニマルウェルフェアに配慮した生産を PR していく。
- 「地球1個分の暮らし」に共感した消費者が主体的に「渥美どろんこ村」を発信することでファンを獲得しているため、今後も魅力ある活動内容を生み出していく。

取組の効果

「地球1個分の暮らし」（持続可能な農的暮らし）に興味を持つ研修生が育成、独立している。
また、大学等の卒論のテーマに取りあげられることもあり、ESD（持続可能な開発のための教育）活動の研修施設としても機能している。

活用した支援策

- 6次産業化サポート事業（R1～R3）

今後の展望

【短期】

渥美どろんこ村の理念や哲学、実証してきたことをまとめた書籍を発行し、活動の PR を行う。

【長期】

地域に呼び込むための方法論として「豚バス」の運行や、全天候対応の体験受け入れが可能なセンターハウス建設をとおして、「地球1個分の暮らし」の実践者を増やしていく。

取組者のコメント

持続可能な経営が農業は特に求められる。今後も、持続可能な農業経営ができる次世代を育てていく。農的暮らしの価値を深めて、広げていくことで自身の経営も豊かになっていく。
今後もファン作りへの投資を続け、地域経済の活性化モデルとなっていきたい。経営としては、今後は個人から法人へシフトし、法人として 50,000 千円 個人として 10,000 千円の売上を目指していきたい。

